

平成 28 年度 推薦入試試験問題（第一部 商経学科）解答例

問 1（30 点）

【採点のポイント】

- ・「神の目線」から作られた都市の利点について、自分の考えを的確に文章で表現できているか。
- ・社会、地域に対する関心や知識があり、それを活かしているか。
- ・柔軟で論理的な思考ができているか。

【解答例】

まず、災害などに対して、対応力が高い街づくりが可能だと思う。例えば、火災に対して、延焼を防ぐために一部の道路を広くする、消防車などの移動を想定して道路を整備するといったことができる。また、消防署、交番、郵便局など、住民の生活に欠かせない施設を的確に配置して、利便性が高く、効率的な街づくりを行うこともできると思う。さらに、整然とした景観にし、どこに何があるか把握しやすい街づくりをすることができれば、観光客の誘致にも有効だと思われる。

問 2（70 点）

【採点のポイント】

- ・「ロコミ」時代の情報発信の利点と注意点を踏まえて、自分の考えを的確に文章で表現できているか。
- ・社会、地域に対する関心や知識があり、それを活かしているか。
- ・柔軟で論理的な思考ができているか。

【解答例】

「ロコミ」の時代の情報発信の利点として、まず、様々な人や組織から幅広い情報発信ができる。このことは、定番ではない、新しい、意外な魅力の発見と発信の可能性を広げると考えられる。そして、こうした情報発信は、お役所的な情報提供と異なり、受け手に親近感がわきやすく、説得力のある情報と受け止めてもらいやすいと思われる。一方で、注意点としては、様々な人や組織が、自分の判断で情報発信することで、不適切な言葉を使ったり、社会から反発を買うような内容の情報発信のリスクが高まることがあげられる。

こうした利点や注意点を踏まえて、私はまず、自分の地域にある NPO や企業、店舗、商工会議所などや、来てくれた観光客に、情報発信を積極的に呼びかけるべきだと思う。その際、過去に問題視されたことがある言葉や社会から反発を買った、いわゆる「炎上」事件の事例を紹介すれば、そうした問題が起こるリスクを下げることができると考えられる。また、雑多な情報発信では、受け手に伝わりづらくなってしまいうので、おもだった情報発信者が連携し、まとめ役、案内役になるような SNS やブログを開設することで、受け手が情報を見つけやすくするといった工夫も考えられる。最後に、観光客などから否定的な情報が発信された場合の対応が大切だと思う。こうした情報を拒否したり、無視したりするのではなく、誠実に受け止

め、否定的な情報発信者に説明をしたり、改善策を伝えたりすることこそが、地域おこしに有効だと思う。